

## 7. 都市化：これから都市はますます大きくなる

これから増える 20 億人が都市に住む可能性に備え、計画する必要がある。

これからの 40 年の人口増加のほとんどは、開発途上地域の都市に集中するとされているが、そのような急激な増加に対する準備はまだ十分とは言えない。都市が持っているメリットをうまく利用するためには、今から計画の立案が必要とされている。

都市には貧困が集中する一方で、貧困を避ける最良の手段も備えている。長い間、都市は経済成長の機動力としての役割を担ってきたことに加え、散在するコミュニティよりも人口密度の高い地域は、環境面での持続可能性があり、さらに効率的にサービスを提供できる。都市における様々な意見、ネットワークや活動により、都市自体から発生する問題についてしばしば自ら解決方法を見出す事ができる。

また都市化は核家族化を加速させ、女性と若者に多くの機会を与えることになる。

### —現状—

- 1960 年には 3 人に 1 人が都市で生活していた。現在、都市人口は当時と比べ 4 倍以上であり、総人口の約半分つまり 34 億人が都市で暮らしている。2045 年までには、3 人に 2 人が都市もしくは都市近郊で暮らすと推計されている。
- 21 ある 1,000 万人以上の巨大都市（世界で最も大きい 4 つの都市である東京、サンパウロ、メキシコシティ、ニューヨーク）が占めているのは、世界の都市人口の 9%にすぎない。ほとんどの都市生活者（52%）は 50 万人以下の都市に住んでいる。
- 多くの人々が、都市型の産業である製造業、サービス・技術産業でより良い職業と収入を求めて都市に移り住み、世界の国内総生産の 80%は都市で生み出されているとみなされている。
- 全体として、都市の成長率のうち 60%は自然増によるもので、それに加えて農村部から都市部への人口移動、残りは土地の再区分のためである。
- 政府はしばしば大都市に流入する人口を減らそうとする。多くの政府がスラム居住者が法的に土地保有することを認めないため、居住者が水、下水、電気、ごみ収集などの基本的

なサービスを受けるための障害となっている。その一方で、立ち退きの恐れがあるために、居住者は家を改善しようという意欲をほとんど持たない。

### —最近の傾向—

- この10年間で、2億人以上のスラム居住者が、清潔な水、下水施設、もしくは耐久性があり密集していない住宅環境を手に入れることができた。その結果、人々は貧困、病気、非識字状態から脱する見込みが持てるようになってきた。今世紀半ばまでに、世界の都市人口は、2004年の世界人口と同じ数になると推計されている。
- 2050年までに、開発途上地域のほとんどの都市が2倍の大きさになる。
- 2025年までに、世界にあと8つの巨大都市が誕生する<sup>※</sup>。アジアに5都市、ラテン・アメリカに2つ、アフリカにあと1つである。今日、東京は世界で最も大きく、3,650万人を擁している。
- 2009年から2050年の間でアジアの都市人口は2倍、つまり17億から34億になる。アフリカは3倍の3億9,900万人から12億人になる。そしてラテン・アメリカとカリブでは4億6,200万人から6億4,800万人になる。その一方、ヨーロッパの都市居住者は5億3,100万人から5億8,200万人に増え、北アメリカは2億8,500万人から4億400万人になる。
- 過去10年で、開発途上地域の都市のスラム居住者の割合は明らかに減少し、2000年の39%に対し、2010年は33%になった。しかしながら、絶対数としては開発途上地域のスラム居住者の数は実際には増えており、今後も引き続き増加するとされている。

※World Urbanization Prospects The 2009 Revisionによると、2025年までに誕生する8つの巨大都市は、新たに1000万人以上になる都市は以下のとおりです。キンシャサ（コンゴ民主共和国）、深セン（中国）、重慶（中国）、広州（中国）、ジャカルタ（インドネシア）、ボゴタ（コロンビア）、リマ（ペルー）、ラホール（パキスタン）